

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	12-060	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Racial differences in the relationship between tobacco, alcohol, and squamous cell carcinoma of the head and neck. タバコ・アルコールと頭頸部扁平上皮癌の関係における人種差		
執筆者		
Stingone JA, Funkhouser WK, Weissler MC, Bell ME, Olshan AF.		
掲載誌		
Cancer Causes Control. 2012 Jun 7.		
キーワード		
頭頸部扁平上皮癌、喫煙、飲酒、疫学		
要 旨		
目的： 喫煙・飲酒は頭頸部扁平上皮癌(SCCHN)の有名なリスクファクターであるが、特にアフリカ系アメリカ人において喫煙・飲酒の SCCHN と人種による差異に関する研究はほとんどない。Carolina Head and Neck Cancer Study は集団ベースのケースコントロール研究であり、喫煙・飲酒と SCCHN との関係が人種によって異なるかどうかを検討するために用いられた。		
方法： 迅速症例確認システムを使用し、2002～2006 年の間にノースカロライナ州の隣接する 46 郡からの症例がリクルートされた。コントロールはバイク購入記録から、年齢・性別・人種に関して症例と対応 (マッチ) する者が選ばれた。今回の分析は白人 989 名・アフリカ系アメリカ人 351 名の症例、および白人 1,114 名・アフリカ系アメリカ人 264 名のコントロールに基づいた。分析は年齢・性別・人種・学歴・野菜果物の消費について調整したマッチングを考慮しないロジスティック回帰を用いて行った。		
結果： アフリカ系アメリカ人における SCCHN と喫煙との関係 (オッズ比(OR) 9.68、95%信頼区間(CI)4.70～19.9) は、白人のそれ (OR 1.94、95%CI 1.51～2.50) よりも強かった。飲酒について解析すると、それよりも弱い差 (アフリカ系アメリカ人の OR 3.71、95%CI 1.65～8.30、白人の OR 1.31、95%CI 0.96～1.78) が観察された。それぞれ独立してそして相加的に喫煙・飲酒の一般レベルの曝露期間と曝露強度の測定基準を調べる際、アフリカ系アメリカ人は一貫して大きな効果があることを示す推定値であった。受動喫煙の影響に人種差は観察されなかった。		
結論： 以上の結果から SCCHN における人種差は摂取パターンにおける差異単独だけでは説明されない、そして喫煙・飲酒はアフリカ系アメリカ人にとって大きな影響があると考えられる、ということが示唆された。		